

“現在の日本に於いての武士道教育の必要性”

拳法会zoomj

講師 船津明生
学術博士



はじめに

**社会主義は、崩壊し資本主義は、格差を拡大！
教育をしようにもお金がかかり！スポーツをするにもお金
が必要” 現代武士道教育の必要性！**

1、武士の歴史

・武士はどこからやってきたのか

武士は、有象無象の輩でなく天皇の子孫で1185年に鎌倉幕府が出来上がる。

・平家と源氏

○戦う人間の頂点は、貴族にならなくては、ならない。しかし、平安時代は、身分は、低くかった。鎌倉幕府が出来上がるが強いだけでは、政治はできず。北条（平氏）が政治を行う。

・戦国大名と武将

武士が徴税、裁判、行政を行った。

・江戸期の武士

○戦争のない江戸時代に入ると武士は、「行政官、公務員、インフラ整備監督員」を行った。

・幕末から明治

○明治に入ると武士は、尊王攘夷などイデオロギー（思想）で動くようになった。

・士族階級

○何故、明治に武士階級が亡くなったか？要因は、中央政権になったからである。武士は、貧しかったが将来の安定が約束されていた。三代先の担保で金が借りれた。

・武士の消滅

○士族が平民に同化する中でプライドが捨てられず選んだ職業が「警官、軍隊、学校の先生、官僚（役人）」・・・士族は、こんなに立派というストーリーを作った。

坂の上の雲の秋山真之、秋山好古も軍人となった。

2、「武士道」とは何か、「武士道」の変遷

・武人精神

○「武人精神、武者の習い、弓馬の道」などは、戦う戦士の守る事、注意事項で「武士道ではない」

・武者の習い、弓馬の道

○人を殺して夢を見ないか?? →当然、夢を見る。そこで仏教が救いとなる。

・仏教との結びつき

○戦争のなくなった江戸時代には、林羅山などによる儒教精神が加わる。

・戦陣訓

五常の徳→仁・義・礼・智・信（暴力集団を納めるルールの確立）

・江戸期の武士道、儒教との結びつき、士道の確立

○信用と信頼の違い

「信用」は、担保が必要。「信頼」は、担保がなく親と子の関係。

・仁・義・礼・智・信（五常の徳）

・幕末における武士の思想

幕末におけるものは、特殊で「上士」と「下士」の激しい対立から生まれる。

・明治期の武士道、「和魂的武士道」、「皇道的武士道」、「キリスト教的武士道」

幕末の狂気の延長が陸軍（長州の天皇のために死ぬ！・・・これを武士道に被せられる！

死ぬことは、良い事ではない。生きているだけでも儲けものである。

・新渡戸稲造の『武士道』

7つの徳目：義・勇気・仁・礼・誠実・名誉・忠義、

教育・克己・自殺と敵討ち・刀・女性の訓育・武士道の影響・武士道の未来

明治維新でビジネスライクになり格差（10万円で一割1万円の儲けだが1億円持っている人は1千万円の儲け）が生れ不平等が蔓延した。道徳をなくした日本に新渡戸稲造は、江戸期の武士道をベースにキリスト教とコラボさせ日本人の素晴らしさを世界に示した。

3、武士道教育の必要性

・武士道の定義：「わが国の武士階層に発達した道徳、鎌倉時代から発達し、江戸時代に儒教思想に裏づけられて大成、封建支配体制の観念的支柱をなした。忠誠・犠牲・信義・廉恥・礼儀・潔白・質素・儉約・尚武・名誉・情愛などを重んずる」広辞苑より

・「武士道と云ふは死ぬことと見つけたり」葉隠

・クエーカー教徒が日々守るべき内面的規範（ウィリアム・ペン『忠告』より）
謙遜・柔和・忍耐・慈悲・慈善・寛容・正義・誠実・感謝・勤勉・儉約・節制

・武士道の間違った使われ方

軍隊の精神教育に使われた武士道、軍国主義の称揚

日本民族の優越性、偏狭なナショナリズムの誇示

封建的な身分規定や忠義の概念の拡大解釈

お金至上主義、勝利至上主義から現代武士道精神へ！ 三菱藩、三井藩からの脱却と日本人として守るべき道徳観を築き上げる。

おわりに

現代における「武士道」

ウクライナ戦争など21世紀になっても無くならない戦争と暴力！広がる格差！競争社会！いじめやパワハラ！それを是正するには、強い自身と惻隱の情を育てる現代武士道しかない！

主要参考文献

一ノ瀬俊也『明治・大正・昭和軍隊マニュアル』光文社新書、2004年

小池喜明『葉隠 武士と「奉公」』講談社学術文庫、1999年

奈良本辰也『武士道の系譜』中央公論社、1971年

新渡戸稲造『武士道』佐藤全弘訳、教文館、2000年

船津明生「明治期の武士道についての一考察 ～新渡戸稲造の『武士道』を中心に～」『言葉と文化』第4号、名古屋大学大学院、2003年

船津明生『「武士道」と「植民地」からみた新渡戸稲造の思想研究』博士（学術）学位論文、特に第二章、名古屋大学大学院国際言語文化研究科日本語文化専攻、2007年

